



不壊

PTA だより
久留米高校

第78号
発行 久留米高等学校
父母教師会
編集 企画広報委員会

気 叡 誠 校
魄 智 実 訓

平成25年度 久高祭

福岡県立久留米高等学校
平成25年10月5日(土)



2年生 つまようじアート



1年生 合唱コンクール

～ステージ部門～



放送部



英語科



演劇部



バトン部

- ～その他～
- 企画委員会・家庭クラブによる感謝の言葉の発表。
 - 保健委員会によるEC活動の紹介。etc...
 - 一般参加のステージも盛り上がりました。



～展示部門～



保健委員会



ホームメイキング部



化学部



英語科



華道部



写真部



書道部



生物部



茶道部



美術部



吹奏楽部



スペシャルゲスト!!

PTA喫茶コーナー

◀バザー▶

陶芸教室▶

▼喫茶コーナー・バザー 陶芸教室大盛況でした▼

今年度の久高祭のテーマは、「飛躍」で、サブテーマが「Create Your Dream」となっています。このテーマには、久高祭での一人ひとりの「飛躍」を学校全体の「飛躍」につなげたいという願いが込められています。また、サブテーマは、本校英語科が二十周年を迎える節目の年ということで、「自分の夢は自分で創造する」という言葉を英語で表現しました。

発表については、ステージ部門が十組、展示部門が十七組と、多くの文化部や委員会、保護者の方によるバザー等、バラエティに富んだ内容となりました。特に一般参加の部は自由参観でしたが、先生によるバンド発表もあり、会場がほぼ満席になるほどの盛り上がりでした。

また、一、二年生は学年による発表があり、一年生は合唱コンクールを行いました。どの組もしっかりと練習の成果を出し切っていてクオリティも高く、入賞した組もあれば、惜しくも入賞できなかった組もありますが、甲乙つけがたい結果だったのではないかと思います。

二年生はつまようじアートの制作、展示を行いました。つまようじ一本一本に二年生一人ひとりの頑張りが凝縮し、裏面には先輩への心のこもった応援メッセージが刻まれたこの作品は、翌日の新聞にも掲載されるほどの出来となりました。

このように、保護者の皆さまや先生方の支えもあり、久高祭を大成功に終えることができました。久高祭開催に向けてご協力ご支援をいただきました関係の皆さまに心から感謝したいと思います。

久高祭を終えて

久高祭実行委員長 高鍋 浩人



UBC大学図書館

カナダ 研修旅行



現地交流校での日本文化紹介(英語科)

カナダ研修旅行を終えて

二学年主任 丸山 博美

二年生は、去る十月、英語科五泊七日、普通科三泊五日の日程でカナダ研修旅行を実施しました。主な研修内容は、ホームステイ、バンクーバー市内自主研修、プリーティッシュ・コロネビア大学(UBC)訪問です。さらに英語科は現地校での研修が加わります。

十月二十三日の英語科出発を皮切りに、普通科はA班(二・三・六組)、B班(四・五・七組)の、三団に分かれての出発でした。バンクーバーまではバスや飛行機を乗り継ぎ成田空港から約九時間のフライトを要する長い行程でした。到着後は十六時間の時差を体験しつつ、各団で順序は異なりますが、各日程に取り組みます。UBCでは学生ボランティアの皆さんが、班毎に紅葉の美しい広大なキャンパスを案内してくれました。市内自主研修では、事前に調べたポイントをグループ毎に自由行動。昼食も各自でとりながら、精力的に歩き回りました。そしていよいよホームステイです。ミートポイントに集合してホストファミリーと対面。その後、期待に少し不安が混じったような表情を見せながら各家庭へと向かいます。翌日の土曜日は各家庭で過ごし、それぞれにカナダの生活を体験しました。英語科は若干長めのホームステイに加え、ノートルダム高校で英語学習に磨きをかけ、現地の高校生との交流を楽しみました。

実は今回、航空機の遅延等いくつかのハプニングに見舞われたのですが、JTBや現地スタッフの皆さんの迅速な対応と、生徒諸君の自覚ある態度により、どの研修もしっかりと体験することができました。生徒諸君の落ち着いた行動や、誰と出会うとも明るく向き合おうとする積極性、そして周りの人々への感謝の言葉に触れ、人間として成長したなど、感慨もひとしおです。また印象的だったのは、帰りに着く際の本当にうれしそうなお表情です。未知の世界ばかりでなく、日常にも良さを発見したこの経験を、今後の学校生活、そして社会人としての生活に活かしていただくことを期待しています。

カナダ研修旅行を終えて

〈普通科〉二年五組 門田 朱加

私は初めてカナダの地を訪れましたが、感動の連続でした。真っ赤な楓が道路を包み、オシャレな家が沢山並ぶ、町全体が美しいと思いました。UBCキャンパスでは大きな図書館があり、様々な人種の人々が一緒に勉強をしているのが驚きました。ホームステイ先ではホストファミリーの方が私達を温かく迎えて下さり、英語が通じなくて戸惑う場面もありましたが、外国人と共に生活するのは貴重な体験になりました。私はこの研修旅行を通して、国が違っても自分から積極的に接していけば、自然と相手と打ち解けられるのだと学びました。また英語は書けるだけでなく、話す力・聞き取る力も大切だと感じました。短期間ではありましたが、異国の文化に触れ、多くのことを知ることができました。この経験を今後の生活に活かしていきたいと思っています。



ホームステイ先

カナダ研修旅行を終えて

〈英語科〉二年一組 足立 夕姫

飛行機のトラブルで七時間遅れてのスタート。これから先、大丈夫なんだろうか、と不安な気持ちを抱えて、私たちの研修旅行は始まりました。しかし、現地に着き、笑顔で出迎えてくれたホストファミリーと会った時、それまでの不安は消え、すこくわくわくした気持ちになりました。次の日は、現地の学校を訪れ、まるで海外ドラマのような雰囲気の中、バディと一緒に授業を体験しました。英語だけの授業は難しかったですが、楽しくもありました。

二日目は、日本文化を伝えるためのアクティビティです。私は茶道を紹介しましたが、なかなかうまくいかず、自国の文化を伝えるのはこんなに難しいものなのかと感じました。

この研修旅行で、国際交流には、異文化理解だけでなく自国の文化も理解しておく必要があるのだと学ぶことができました。



蒸気時計台



バンクーバー市内自主研修



バンクーバー市内自主研修



ホームステイ家族と



ホームステイ家族と



ホストファミリーとの別れ

留学生交流会について

国際交流委員長 出利葉 有晃

7月13日(土)に行われ、報告させていただきます。今回は、留学生12名を迎え、初めに、本校留学生のソフィアさんより、母国コスタリカについてのプレゼンテーションをして頂きました。コスタリカの風景、生活などを映像で紹介していただき、日本などの文化の違いや、日本などを教えて頂きました。交流会では、日本の夏祭りとして、1年生英語科生徒より、ラムネ・水ヨーヨー・浴衣・はっぴ等の説明をして頂きました。面白くとも上手に説明して頂いて、拍手と笑い声が会場に響きました。留学生には日本の伝統衣装である「はっぴ」を着て頂きました。そして、生徒たちは留学生に、ラムネの飲み方や水ヨーヨーの釣りを教えるながら、積極的に親睦を図っていました。水ヨーヨーは簡単には釣れませんが、何回も挑戦している留学生・生徒もいました。最後はビンゴゲームで、会場は盛り上がりたくさんの笑顔を見ることができました。

この交流会が、留学生と生徒のいい思い出になれば幸いです。今回の留学生交流会に参加し、協力いただきました先生、保護者の方々本当にありがとうございました。



大学視察研修を終えて

研修委員長 丸山 佳子

9月26日、平成25年度PTA視察研修を実施いたしました。本年度は、九州大学伊都キャンパス見学、その後ANAクラウンプラザにて、昼食を兼ねながら参加者同士、交流していただくという計画で行いました。朝8時半校長先生、湯地先生、保護者45名の参加で久留米高校を出発しました。九州大学伊都キャンパス到着後、伊都キャンパス紹介のビデオと伊都キャンパス進捗状況のビデオを見させていただきました。平成23年に創立100周年を迎えた九州大学は現在、次の100年を築くための舞台ともなる伊都キャンパスの整備を進めているとの事。平成17年10月に工学系移転を開始、平成21年理学系移転、平成27年理学系移転予定、平成29・30年文系移転予定、そして平成31年度学系その他移転予定で完了だそうです。ビデオで紹介された施設はどれも目を引くものがありましたが、今回は水素ステーションと図書館を見学させていただきました。水素ステーションの見学では近未来の社会を見据えた最先端の研究の一部に触れ、感動された保護者の方もおられました。



クラスマッチ 平成25年9月11日(水)

一 年	男子 バレーボール	1位 7組A	2位 2組A
	女子 バスケットボール	1位 6組A	2位 5組B
二 年	男子 サッカー	1位 3組	2位 4組
	女子 バレーボール	1位 7組	2位 6組
三 年	男子 バスケットボール	1位 4組A	2位 3組A
	女子 バレーボール	1位 6組A	2位 7組A

編集後記

二学期もあつという間ですね。今学期は色々な行事が行われました。カナダへの研修旅行、クラスマッチ、留学生交流会や久高祭。久高祭では生徒さん達のステージや展示発表に加え、バザーや陶芸体験などのPTA主催の催しも企画され大盛況でした。みなさんも来年は今年より多くの行事に参加されてみてはいかがでしょうか。(企画広報委員)